

東京都渋谷公園通りギャラリー

交流プログラム「渋谷ギャラジオ」

令和56年度番組「展覧会のあと」

ゲスト4: 下町レトロに首っ丈の会さんとおかんアーティストの皆さんをお招きした回のうち、#14のテキストです。

○河原 ほかの皆さんの、だから、まず尾本さんと西村さんが……

○山下 そうですね。

○河原 ほかの第一世代と一緒におかんアートを。まだチームとはなっていなかったかもしれないんですけど。

○山下 なっていなかったですね。

○河原 ちょっと一緒に活動を始めていって、そのその後ぐらいの方が。

○山下 そんなのかな。新居さんは新居さんで、また結構お古い。お古いというか。

○新居 入り方がね、全然手芸とかじゃなくて。

○河原 違う。

○山下 違うんですよ。面白いですね。

○新居 何か偶然、海文堂に行って。

○山下 海文堂の展覧会なんて、大分昔ですもんね。

○新居 それで面白いなって思って。それまで何の興味も、それこそ家にあっても見向きもしない。(笑)

○河原 ああ、そっちの側というか。

○新居 何か急にころっと変わったんです、見方が。そういうものの。

○河原 へえ、そうなんです。その海文堂でしたっけ。

○山下 海文堂ですね。

○河原 その展覧会は、いつぐらいのやつなんでしょうか。

○山下 1回目と2回目が……

○新居 2009年と2010年。

○山下 2010年なんで、だから2011年、2012年だったん違うかなと思います。それで、2013年からバルですね。2013年からバルになると思います。

- 河原 じゃあ、結構初期の展示会を新居さんは見られている。
- 新居 そうです。
- 山下 たまたま元町の商店街を歩いてはったんですっけ。
- 新居 そうそう。それで、スズキさんののがあって、あれって思って。
- 山下 すごい。
- 新居 それで、これはどなたがされて、どういうふうな趣旨でしているのかなって思って。(笑)
- 山下 (笑)
- 河原 思いますね。(笑)
- 新居 山下さんにたどり着いたら、山下さんがお話ししてくださったのがすごく面白くて、私、ちょっと講座とかなんかね、婦人会の仕事をしていて。
- 山下 婦人会の、ちょうどそのときにね、そう。
- 新居 ぜひ、みんなに話してほしいと思ったんです、こういう、やっていることを。それでお願いしたのがきっかけで、そのときはまだ香坂さんっていう名前は。(笑)
- 山下 巨匠のことは知らないんですよ。御存じないんですよ。
- 新居 名前は「あっ、香坂さんっていうんだな」って、私の同級生と一緒に名前やなって思っ
てね。(笑) すごく親しくしていたんです。そうしたら、あるとき、何か急に聞いたんかな、そうしたら
本当に同級生のお母さんだったんです。(笑)
- 一同 (笑)
- 河原 たまたま、小学校の同級生でしたっけ。
- 新居 そうです。もう本当にびっくり。(笑) それから、何かもう「ちょっと」とかというような関係に
なって。
- 山下 親子のようにね。
- 河原 親密になった。
- 新居 それで、私の講座をしてもらったり、私もしたいなって思い出したりして、やり出したんで
すけれども。だから、新開地にも、ヨマスさんなんかも知っているし、よく見に行ったね。
- 山下 ああ、見にいかれていたんですか。
- 新居 行っていました。
- 山下 新開地のあの場所って、めっちゃ重要やね。
- 新居 だから、御飯も食べさせてもらったり、あそこでおにぎりを食べる食べる言うて。(笑)
- 一同 (笑)

○山下 あそこ、めっちゃ貴重な場所やったんや。

○新居 店員さんになつたりね。

○山下 あっ、売り子じゃなくて。

○新居 ワークショップしてもらったり。もう本当にあそこ、ざっくばらんな人やったね、みんな。買いに来る人っていうか。

○藤岡 すごくファンがついてはりましたからね。

○山下 わあ、そうなんですか。

○藤岡 だから、その人目当てに、尾本さんとか香坂さんとかのね。それで、ワークショップですよ。

○山下 ああ、ワークショップ。

○藤岡 座って。

○山下 習いにくるんですね、みんな。

○藤岡 来られています。

○山下 ほお。

○河原 その頃から。

○藤岡 「いや、また会えて」っていう感じで、お見かけしました。(笑)

○山下 すごいな。

○新居 それが、別にお金を取るわけでもないし、余ったきれで「こういうのを作るんや」とか言うて、いっぱい持ってきてはって。何もなく、気軽に教えてくれるっていう感じやもんね。

○山下 リユナイトっていうのをね、ユニットをつくってはるんですよ。

○河原 えっ。

○新居 同級生なんです。

○河原 同級生ユニット。

○新居 だから、香坂さんも知っていた。

○山下 香坂さんの娘さんと3人、同級生なんですよ。

○新居 本当に驚き。

○山下 それで藤岡さんも入ってこられたみたいなきっかけ。

○藤岡 そうですね。新居さんと友達だったから、香坂さんという人とうちでしゃべっていたんですよ、集まって。それで、友達のマチコちゃんっていうんですけど、「マチコちゃんのお母さんがね、おかんアートいうのをやってね」っていうたら、「えっ」って言い出して。

- 山下 そこで気づいたんですよね。
- 藤岡 「えっ」って。
- 河原 そこでなんですね。
- 藤岡 そう。
- 山下 藤岡邸で気づかかったんですよね。(笑)
- 藤岡 それで、友達の、本当に五、六年生の同じクラスだった。写真も残っているんですよ。
- 山下 めっちゃ見たい。
- 藤岡 香坂邸で、インドアで撮った。
- 山下 うそ、すごい。めっちゃ見たいんですけど。
- 河原 すごく仲がよかった、特にメンバーなんですね。
- 藤岡 そうそう。あっちとこっちなんですけどね。丸山っていうのはすり鉢状なんで、あっちとこちなんですけども、「ふ」「ふ」で、「フナビキ」「藤岡」で近かったもんで。
- 山下 (笑)
- 河原 「ふ」「ふ」で席順が近かった。
- 藤岡 香坂さんは家が近くて、しょっちゅうお母さんとも会うことがあったから知ってと。それで、「えっ」って言い出して、何かこう資料見て、「えー」と言い出して。
- 山下 (笑)
- 河原 驚きますね、それはね。
- 藤岡 その後だったかに、多分、海文堂で2回目のときだと思うんです。神戸新聞にこんだけほどの記事が載ったんです。それを切り抜いておいて、もう半年もしてからなんですけども、その娘さんのマチコちゃんと会うときがあったんで、「これ、お母さん載ってたよ」言うたら、「そうやねん」っていう感じで。
- 山下 おお。
- 新居 家族は冷たいんです。(笑)
- 一同 (笑)
- 河原 そうか。じゃあ、そのぐらいから、新居さんも藤岡さんもおかんアートの活動に入り出したんですか。
- 藤岡 というか、新居さんがその講座をつくることができていたんで、つくったんです。
- 山下 すごいよ。
- 藤岡 つくって、おかんアートって、それが分かってからですけどもね。頼んで、空いている

日、曜日決めて、月1でやってもらって、それで、まずは私とか私の友達とかを誘って、してもらった。

私はいうたら山のほうなのでね、皆さんがおっしゃるようなおかんアートというのを見るのがなかった。

○河原 山のほうの。

○藤岡 分かりますか。

○新居 高級住宅街で、セレブなんです。(笑)

○山下 (笑)

○藤岡 いや、その地域でね、そんな喫茶店があるわけじゃなし、散髪屋さんが隣にあるわけじゃなしっていう地域なんです。そういうのを見るチャンスがなくて。ただ、うちの母は、婦人会っていうのがあったときに、手芸で刺しゅうを、戸塚刺しゅうであったり、フランス刺しゅうだったり、刺しゅうが集まっていたので、それが手芸だと思って、それをおかんアートっていうのも含めてね。それで、香坂さんっていうので講座をつくってもらってから、キティちゃんのね。

○新居 一番最初に作ったね。

○河原 それが一番最初だったんですね。

○藤岡 もちろんロールちゃん、というのを編み方教えてもらったの。そうなの。これも手芸かという感じ。

○山下 すごい衝撃ですよ。兵庫のビバリーヒルズにはないんですよ、だから。

○藤岡 香坂さんの講座で、おかんアートって「えっ、こんなんも」という感じと、手芸だとある程度の、見本に近いきれいさとか出来栄えというのが求められるじゃないですか。おかんアートはその辺ね、香坂さん自体の性格で「あんたに教えてんから、もうあんたが先生や。先生いうたら先に生まれただけ」というのがモットーで教えてもらったんで、気張らなくて、きちんとせんといかんわ、1ミリのあれやったら1ミリにせんといかんわとか、それがなかったんでね、入っていけて、おかんアートっていうの。こちらのようなきちとしたことはようしないんですけれども。ということで。

○河原 伊藤さんがいらっしゃいましたね。

○山下 いらっしゃいませ。かばん、向こうへどうぞ。

○河原 今ちょっと、皆さんがどういうふうに結成されてきたのかみたいな話を聞いておりました。

それで、どこまでいったんだっけ。藤岡さんがビバリーヒルズに住んでいて。(笑)

○一同 (笑)

○伊藤 お上品なところで。(笑)

○河原 なかなかおかんアートに出会わなかったみたいところで、新居さんとのつながりで出会って、手芸のイメージしていたものとちょっと違う、おかんアートの間口の広さとか自由さみたいなところに引かれていったということですよ。

○伊藤 そうですよ。

○河原 山田さんと池田さんは。

○尾本 山田さんは私が誘ったんですね。

○新居 ママ友なんですよ。

○河原 あっ、ママ友なんですか、もともと。

○尾本 娘同士がね、同級生で。

○河原 へえ、それでちょっとやってみないみたいな感じでお誘いが。

○山田 誘ってもらったんです。

○河原 なるほど。もともと、でも、つながりがあったんですか。その手芸のつながりというか。

○山田 手芸のつながりじゃなくて、子供が同級生だからお母さん同士というののつながりだったんですけどね。

○山下 何か山田さんも手芸されていることって、尾本さん御存じやったんですか。

○尾本 そうそう、何か編み物もね、作ったりしていたしね。

○山田 編み物が好きで、よう作ったんです。

○山下 それは御存じやったっていう感じなんですか。ふーん。

○河原 うんうんうん。

○伊藤 尾本さんはすごく、手芸のお店で働いていらっやって、何でもできるんですよ。

○尾本 何でもっていうことは。

○伊藤 ほんまに何でも。

○山下 今もすごいしてはる。

○伊藤 もう、めっちゃ速い。

○山下 本当に速い。

○河原 それで、山田さんが加入し。

○山田 そうそう。

○河原 ほかにも皆さんいる中で、池田さんは。

○池田 私はもうつい最近なんです。まだ2年目やから。そういう、同級生なんです。

○新居 私、だからね、違うのよ。

○河原 あっ、そこも同級生。

○池田 高校生の。

○新居 都築さんの写真集を作ってくださいたでしょう、このときの。それを集まりで見せてんね。私ら、ちょっと月1でランチ会やってんねん。もう残り少ないから。(笑)

○池田 そうそうそう。(笑)

○河原 いえいえ。(笑)

○新居 そのときに持って行って、こんなんっていったら、もうみんな面白がってくれて。あれはすごい分かりやすかった。みんな「それなら作ってる」言うて。

○池田 私、老人ホームに勤めていたんですよ。だから、そういう手袋の、お年寄りが簡単にできるものとか毎月何か作ったりしていたから、そのときはそれがおかんアートとか全然思わんと、ただ簡単にできるもんという感じで、手袋アートとか何かそういうのは作っていたんですよ。それで、2年前ぐらいね、誘われてというか、しゅっときて。

○新居 だから、説明をしても分からないので、本を見たらこんなんやったわ、こんなんやったわって。

○河原 確かに分かりやすいですね。ビジュアルでばっばっばって撮っていますからね。それも、かっこよく撮っているから。

○池田 それでもなかなかね、おかんアートの趣旨がね、まだ飲み込めていなかった。(笑)

○一同 (笑)

○池田 こうやってよく話聞いていたら「ああ、そうなんや」思いながら。(笑) 納得しながら聞いています。

○伊藤 いや、新しいいうても、多分、すぐ溶け込んでるんで。

○河原 そうですよ。何か前からいたかなって感じで。

○伊藤 そうそうそう。

○河原 僕もこの間初めてお会いして、「あれ、いたかな」って。

○池田 そうなんです。だから、趣旨がだんだん、こうやって話を聞いているうちに分かってくるんですよ。

○新居 学習しているんですよ。(笑)

○河原 でも、結構いろいろ動いているというか、生きていますもんね、おかんアートもね。いろんな、定義し難いものだったりもしますもんね。時代によって違ったりもするし。

なるほど、じゃあ、伊藤さんがせっかく、ちょっとお仕事を終わられて直行していただきましたの

で。

○山下 伊藤さん、ありがとうございます。

○河原 ありがとうございます。

○伊藤 こちらこそ、すみません。

○河原 何かさっき簡単に、山下さんに下町レトロに首っ丈の会のご紹介をいただいて、自己紹介してもらったんですけど、何か伊藤さんも簡単に活動というか。

○伊藤 活動ですよ。私、ここで、和田岬というところでクレープ屋と駄菓子屋やって、今年で30年たつんですよ。

○一同 すごい。

○山下 そうか、震災のときか。

○伊藤 そうなんです。開けてすぐ震災やったんですよ。

○一同 そう。

○伊藤 そうなんです。会社も辞めて、水も電気もガスも来ていない小学校に避難していて、どうしようかなってところから始まったんですけど、この辺ってやっぱり大きい会社はあるんですけど、全然知られていなくて、わざわざ知り合いの人がここに来てくれたら、地図を渡したら行きやすいやろうなと思って、ここにもう一軒駄菓子屋があるとか、ここはお釣り、絶対「何百万円」言うとか、そういう。(笑)

○一同 (笑)

○伊藤 神社仏閣じゃなくて、そういう地図を作っていて、そうしたら、たまたまお店に来てくれたんですよ、山下先生。

○河原 そういうのを考えていたときに。

○伊藤 もうね、作って渡していたんですよ。渡していたんですけど、来られたから、「じゃあこれ、もしよかったら」って言って。(笑)

○山下 まだ持っていますけど。(笑)

○伊藤 私、パソコン使えないから、写真をね、コピーで縮小、縮小して。(笑)

○一同 (笑)

○河原 昔ながらの。

○伊藤 そう。もちろん地図なんか載せられないですよ。地図載せられへんから、言われたら、ここ真っすぐ行ってこっち行ってとかっていうのをね。

○河原 アナログなんですね。

○伊藤 そう、アナログなんです。それをすごい喜んでくれて、それで「わー」って言って、「じゃあ、案内するわ」って言って案内したんがきっかけで、それをすごい面白いといってツアーにしてくれて、ツアーと一緒にさせてもらいたいな。今度そこに行く先々に、何かおかんアート、手芸品があるって言って、山下さんがそれを今度見つけられて、取りあえず今こういう感じです。

○河原 いろんな人の出会いというか。

○伊藤 そうですよ。

○河原 人生が絡み合っていますね、このおかんアートの活動は、皆さんの。

○伊藤 だから、私もね、そんなに皆さんのことをね、そんなに詳しくない。会ってちょっとしゃべるだけやったんですけど。(笑)

○河原 (笑)

○伊藤 皆さん、山下さんが調べたんですよ、お話聞いて、皆さんの人生のグラフみたいなの。

○一同 (笑)

○河原 僕も拝見しました。

○伊藤 それ見たときに「えー」言うて。「あっ、そうなん」とかって。もうびっくりすることばかりですよ、皆さんの今までの人生が。「えー、そうなんや」って。やっぱり聞いてみな分からへんなと思っ

○河原 一人一人のね、人生が。

○伊藤 そうそう。一人の人生が。

○河原 おかんアートの、そこからひもといっていくと、見えてくると。ありがとうございます。(笑)

○伊藤 (笑)